

2. 人間科学部で学ぶ意味

人間科学部にようこそ。人間科学部は2023年度から始まった新しい学部です。その第三期生として、私たち教職員一同は、みなさん一人一人を歓迎いたします。みなさんは、これから人間科学部で展開されていく真新しい学びの担い手となります。

人間科学部の目的は、みなさんに人間というものを多角的に、そして実証的に捉える力を身につけてもらうことです。人間とは何か、人間とはどのような存在なのかという問いは、人間を対象にしたあらゆる学問が向き合う根本的で大きき問いですが、現時点でみなさん自身はこの問いに対してどのような答え、もしくはイメージをもっているでしょうか。多少無茶ぶり感はありますが、この種の問いには唯一の正解があるわけではないので、臆することはありません。一度、この文章を読んでいる画面から目を離して、あなたなりの仮の答えを「上から目線」で考えてみてください。さあ、どうぞ。

おそらくみなさんの誰もが、どんなに素朴なものであったとしても、人間とはこれこれこういうものだという人間に対する見方、つまり人間観を何かしらもっているはず。このあなたの角度からみた人間観を、これから始まる4年間の学びのなかで、今度は「下から目線」で、つまり科学的に真摯な態度で検証して行ってほしいのです。そのための道具が、心理学であり、スポーツ科学であり、社会学です。人間行動の仕組みを心、身体、社会の観点から解き明かそうとするこれらの学問で繰り広げられている議論をていねいに追うことによって、またその客観的な証拠を集めるための技能を学修し駆使することによって、今仮置きした人間観をみなさん自身の手で、ときにはあえて別の角度から慎重に確かめてください。その結果、仮置きした人間観が支持されたかどうか、つまり当たったか外れたかはあまり問題ではありません。それよりも証拠にもとづいた一連の検証を、みなさん自身ができるようになることが大事なのです。言い換えれば、どのような結果が得られれば仮説が支持された、もしくは支持されなかったといえるのかを見極められるようになるということです。それが人間を多角的に、そして実証的に捉える力を身につけるということの1つだとぼく自身は考えています。

では、今後理工系人材の需要が増々高まると言われている日本社会において、人間の行動を科学的に理解しようとする試みはどのような意味をもっているのでしょうか。もちろん、心理学やスポーツ科学、社会学は、目に見えない心の働きや身体の活動、人々の意識の様子を数値に直して測定し、その傾向を明らかにするために統計的手法を用います。その意味で、人間行動の科学的理解自体がすでにデータサイエンス的側面をもっています。それは置くとして、人間行動を科学的に理解することは、社会における様々な仕組みや決まりをつくっていくための土台になると、私は考えます。なぜなら、社会の仕組みや決まりをうまくデザインするには、それを支える人間の特性を知ることが不可欠だと思うからです。また、いくら技術が発達しようとも、社会がこれからどのような方向に向かうべきかを決めるのはみなさん自身であり、それを考えるためにはみなさんがもつ人間観を、大学での学びを通してアップデートしておく必要があるのではないのでしょうか。さらに、社会が機能するためには、社会を構成しそれを支える人々が抱える心身の問題への理解と支援も必須でしょう。この点でも、人間行動の科学的理解は、よりよい社会をつくるために貢献すると考えられます。

誤解を恐れずに言えば、大学で学んだ内容がみなさんの実生活で役立つ機会は思ったほど多くはないかもしれませんが。最新の知識もすぐに古くなります。だからといって知識を得なくてもいいと言っているわけではありません。得てください。一方で、その学問のものの見方や考え方、対象に対する接近方法は、みなさんが社会に出てから直面する様々な問題解決に役立つことでしょう。これもぼくの個人的な考えに過ぎませんが、大学で学ぶことの1つの意味は、その学問の知識のみならず考え方を獲得することにあると思っています。

人間科学部には未来がありますが、まだ歴史がありません。その歴史は、みなさんの学びとともに始まります。



人間科学部長

福野光輝